

各位



当金庫の2022年度決算の概要等について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜わり、厚くお礼申し上げます。

標記の件につきまして、下記のとおり、お知らせいたします。 敬 具

記

1. 2022年度（第79期）決算の概要

(1) 収益等の状況

(単位：百万円、%、ポイント)

	2021年度	2022年度	前期比増減
経常収益	4,316	4,150	△165
経常費用	3,557	3,646	89
経常利益	759	504	△254
当期純利益	807	427	△380
コア業務純益	625	806	181
自己資本比率	9.65	9.55	△0.10

経常収益は、個人ローンの減少および住宅ローン金利の低下等に伴う貸出金利息の減少等により、前期比1億65百万円減少（同比△3.83%）の41億50百万円となりました。

経常費用は、今後の金利上昇を見据えた対応として国債の売却損2億82百万円を計上し、有価証券ポートフォリオを改善したことから、前期比89百万円増加（同比+2.50%）の36億46百万円となりました。

その結果、経常利益は、前期比2億54百万円減少（同比△33.54%）の5億4百万円となり、当期純利益は、前期比3億80百万円減少（同比△47.13%）の4億27百万円となりました。

なお、本業の儲けを示すコア業務純益は、前期比1億81百万円増加（同比+28.95%）の8億6百万円となり、3期連続の増加となりました。

また、自己資本比率は、9.55%とほぼ前期並みの水準となりました。

(2) 主要科目残高の状況

預 金	3,799 億円	(前期比 14 億円減少)
貸出金	1,506 億円	(前期比 17 億円増加)

預金は、給与振込先口座・年金受給口座の獲得などの取引基盤の拡充に努めたことにより、個人の流動性預金は増加しましたが、定期性預金が低金利の長期化等により減少した結果、期末残高は 3,799 億円（前期比△0.38%）となりました。

貸出金は、企業の資金繰り支援や住宅ローン等に注力したことにより、期末残高は 1,506 億円（前期比+1.16%）となりました。

(3) 金融再生法開示債権の状況

不良債権総額	122 億円	(前期比 5 億円減少)
不良債権比率	8.09%	(前期比 0.46 ポイント低下)

金融再生法における不良債権額については、前期比 5 億円減少（同比△4.25%）の 122 億円となりました。また、不良債権比率（金融再生法ベース）は、前期比 0.46 ポイント低下の 8.09%となりました。

(4) 2023 年度（第 80 期）における収益見込み

経常収益	41 億円	(ほぼ前期並み)
当期純利益	4 億円	(ほぼ前期並み)

2023 年度につきましては、コロナ禍で抑制されていた需要の回復が見込まれるものの、ウクライナ情勢や米中対立等の影響懸念や、日本銀行による金融緩和政策の継続等、当金庫を取り巻く収益環境は、今後も厳しい状況が続くことが見込まれ、経常収益は 41 億円、当期純利益は 4 億円とほぼ前期並みを見込んでいます。

以 上

[お問合せ先]：企画・運用部（大森、中村、泉） TEL：0848-62-7143